

前回お伺いさせていただきました折にも感じましたが、参加者の皆様が、大変しっかりと勉強され、伸びやかに演奏されていらっしゃいましたことに、大変感心いたしました。幼児部門から、A部門、B部門、C部門に至るまで、皆様が、それぞれによく合った選曲で挑まれ、各先生方の元で、大変良い勉強をされていらっしゃいました。

その上で、今後何か参考になりますことがあるとしましたら、特に左手のハーモニーの流れを感じさせながら演奏することや、ブレスを上手く使うと、フレーズの流れが取りやすくなること、いつもより少し広い舞台上で演奏する際には、コントラストをより楽しむ感じで弾くことなどはお勧めです。そして、普段の練習は、まず一回めは全部通してから、一番弾きにくいところを見つけて、その原因は主に指遣いにありますから、特にレガートで弾く場合に、最も適した指遣いを工夫することが役に立ちます。また、演奏家が最も気をつけることは、それぞれの音に、よく体重がかかって歌えるかということです。ピアノの蓋を閉めて、その蓋の上で、音のイメージや、フレーズを感じながら、全体重をかけて弾いてから、実際に鍵盤上で弾くと、随分と変わってくるかと思います。ぜひ一度トライしてみてください。あとは、それぞれの曲が書かれた時代や、作曲家の他の楽器の曲や歌曲などを聴くと、さらイメージが広がります。皆様がとても良い勉強をされていますから、今後とても楽しみにいたしております。頑張ってくださいね。

中沖玲子